

1 目指す学校像

「自分や他者、一人一人のよさを生かしながら、自分の力を伸ばせる学校」



現代の不確実な時代の中で生きていく人類にとって、直面する課題から、よりよい生き方に向かって変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動するスキルが必要であると考えます。

本校の教育目標である「役に立つ喜びを知る子」は、これからの時代を生きる子供たちに必要なスキルを土台とした、子供たちの将来あるべき姿としての目標となっている。学校は、児童、教師、保護者、地域コミュニティが互いに手を取り合って学びを構築していく中でその能力を身に付ける場でなければならない。そのために互いに共有された目標に向かい、児童が自分の「みち」をあゆんでいけるよう、教育活動を推進していく。

また、本校の特色である「異学年交流活動（たてわり班活動）」は子供たちの中に「引き継がれる文化」として存在し、進化している最中である。長年積み重ねてきた「異学年交流」を基盤とした特別活動を柱に、自分のよさや役割を理解して行動できることが大人になり、自分が生きる社会での役割を意識し、参画できるようになること。また、教育活動を通して出会う他者のよさを知り、受容できることが多様な考え方を受け入れ、よりよい社会を創り出せる大人の一人になることにつながることを目指していく。人との関わり合い、つながり合いながら学んでいくことは、学校だからこそできる学ぶべき価値、学校教育に課せられた責務であると考えます。

また、現6年生が大切にしている「命」「未来」「希望」「夢」「友達」「自分」「家族」「先生」も新たに学校経営の考え方として取り入れ、子供たちと子供たちに関わる全ての方々と学校づくりに取り組んでいきたい。

学校運営協議会や青少年対策地区委員会をはじめとする地域の方々と学校が積極的に関わり合い、「未来の地域を担う子供たち」を育て、地域コミュニティの一つの場として「式分方小学校」がその中心となり、人々をつなげる存在でありたい。キャッチフレーズ「地域の風が行き交う学校」の実現を目指し、教職員一同が一丸となって教育活動に取り組んでいく。

○一人一人の「心」を整え、「学び」を拓く児童の育成を目指す学校

- ・ 自分の「心」や「わからない」、「できない」に向き合い、課題を「心」と「学び」が一体となって乗り越えていける態度や価値観を育てる。また、「できた」嬉しさを自分や周囲と共に感じられる教育活動を推進していく。
- ・ 教師は、子供たちの多様な考え方を大切にし、学びのめあてへとつながる授業を行う。
- ・ 地域人材や保護者、中学校区の学校と共に、これからの教育を受けるための基盤となる知識を身に付けるための取り組みを行う。

○自分や多様な他者のよさを生かしながら、主体的な実践力を伸ばす学校

- ・ 異年齢交流を通して、責任感や自己有用感を高め、子供たちの思いや実践が自己実現につながっていることを味わわせる。
- ・ 互いの良さや活躍、頑張りを認め合い、共に成長することに価値を見出す気持ちを育てる。
- ・ 自分や他人の「想いを大切にする」心を育てるとともに、キャリア教育を推進して人とのつながりを通して、自分の将来や生き方について考える教育活動を行う。

○子供たちが地域から愛され育まれ、地域のよさに気付くことのできる学校

- ・ 複雑化する子供たちの課題に組織で向き合い、社会的自立を見据えた義務教育9年間の切れ目のない居場所づくりに取り組む。
- ・ 学校に保護者や地域の方が関わることで、地域と一体となった学校づくりを進める。(ゲストティーチャー、わくわくサマースクール、学習や行事での教育支援ボランティアの受入、地域の愛があふれる花壇等)

2 中期的目標と方策

○子供たちが主体的に学び、「心」と「学びに向かう力」が身に付く児童の育成

- ・ 「自分で考える力」「友達と話し合って決める力」「意見をまとめる力」「発表する力」等を柱とした教育活動全体で育て、児童が多様な考えを認め合いながら学ぶ授業づくりに取り組む。
- ・ 「できた」という経験をもとに、新たなチャレンジにつながろうとする態度や価値観を育てる。
- ・ 教員の専門性を生かした教科分担制や交換授業、チームティーチングなどを積極的に取り入れ、一人一人の学習状況を把握するとともに、児童理解を深め、組織的で適切な学習支援を行う。
- ・ 義務教育終了段階において、生涯、学び続けられる基盤となる学力の保証を目指し、中学校区の学校がつながり、一体となって取り組む。

○子供たちが自他の存在を大切にし、将来の自分に夢や希望をもつことのできる児童の育成

- ・ たてわり班活動を中心とした異年年交流活動を充実させ、「人の役に立つ」「下学年に頼られる」「仲間と成し遂げる心地よさ」を経験することにより、自尊感情や自己肯定感を育む。
- ・ 児童理解に基づく法令や条例に即した組織的な生活指導、全教育活動を通じた人権教育・道徳教育を充実させ、いじめや暴力を許さない心情を育てる。
- ・ 学級会や委員会やクラブ活動、たてわり班活動を軸に学校生活全体で相手の意見を尊重し、少数

意見に配慮しつつ話し合いで折り合いをつける中で合意形成し、皆で意思決定したことを成し遂げる力を身に付ける。

- ・ 人との関わりを通して自分や他者のよさに気づき、将来への期待をもてるように、各学年に応じたキャリア教育を推進する。
- ・ 教職員や関係機関が連携し、支援を必要とする児童や不登校傾向の児童、その保護者にそれぞれの役割や強みを生かした関わりを行い、どの子にも自分でいられる居場所をつくる。

○地域の人が集い、関わり合う中で地域のよさに気付くことのできる児童の育成

- ・ 地域人材や郷土資料を活用し、地域にある施設とも連携しながら、子供たちが地域のよさに気づき、自分たちが住む町に愛着をもつことのできる教育活動を展開する。
- ・ 入学前から義務教育終了まで一貫した教育が行えるよう、近隣の保育園・幼稚園や小中学校と連携する。特に中学校に進学した時に同じように話し合いができる子供たちにするために、元八王子中学校区、城山中中学校区との連携を深めていく。
- ・ 小中一貫校である元八王子中学校、元八王子小学校との連携を深め、「元八中学区小・中一貫教育推進計画」に基づいた直接交流の機会を設ける。
- ・ 学校運営協議会が中心的役割を担い、学校が地域とのつながりを大切にしたコミュニティーの中心になるような存在であり、学校が「地域と共に育て、共に育つ場」となる。
- ・ 青少対元八王子地区緑化活動部との「地域の愛があふれる花壇」を、学校と地域が協力して管理し、「地域が集う学校」の象徴とする。

○教育活動の充実につながるような働き方を進め、持続的なウェルビーイングの実現を目指す

- ・ 職員一人一人が思い描いた未来が、学校が実現したい未来になるように思いを共有できる職場環境にしていく。
- ・ それぞれの専門性を生かし、互いに高めあうOJTの機会や研修機会を後押しする。また、各自が得意なことを伸ばすことや挑戦していきたいことへの意欲を大事にする職場環境を整え、業務の効率化が教育活動の充実と仕事への意欲と誇りにつなげていく。
- ・ 校務支援システムやホームアンドスクールを活用や校内組織や会議のもち方の工夫・見直しや個々が抱える育児や介護等とのライフワークバランスを考慮しながら校務改善、支援を図る。
- ・ 教員同士が、授業のこと、児童のことを活発に話し合い、悩みを相談できる風通しの良い職場環境をつくり、サービス事故防止を起こさせない。
- ・ 東京都教育委員会「学校と家庭・地域とのより良好な関係づくりに係るガイドライン」に基づく、本校のガイドラインを策定する。

3. 今年度の取り組み目標と方策 ◎は重点目標

◎児童のよりよい人間関係を形成し、「役に立つ喜びを知る子」を育成する。

- ・ 本校の教育目標である「役に立つ喜びを知る子」の育成を目指し、「学級外でも自分が活躍できる場があると感じられること」「頼られる上級生であること」「上級生に憧れの思いをもつ下級生がいること」等、自尊感情の高まりへとつなげていく。

・ 保護者アンケート、「本校の教育方針が役に立つ喜びを知る子であることを知っている」の肯定的評価90%以上。また、「学校が力を入れて行っている取組（たてわり班活動・地域と連携した学習）」の肯定的評価90%以上、「学校は、子供に次の学年または将来に向けて希望のもてる指導（キャリア教育）をしている75%以上。

・ 児童による学級会の進行がどの学年もできる。キャリアパスポート（オリジナル冊子含む）の効果的で価値のある活用。

- ・ たてわり班遊び「いいなタイム」を中心とした異学年交流活動を年間通して実施する。また、運動会（スポーツフェスティバル）、展覧会（式分方フェスティバル）、にぶっこまつり等の行事にもたてわり班のよさを生かし、児童にとって活躍できる機会を多く設けることで自分のよさや役割に気づき、共に過ごす仲間のよさに気付かせる。

各行事の「児童の振り返り」や保護者アンケートを学校だよりで紹介し、主体的な活動への価値付けを行う。

児童の人間関係や満足度を全学級年2回のQ-U実施から客観的に把握し、学級経営、専科経営にいかす。また、Q-Uに関する研修の実施2回

◎教師は児童が主体的に学ぶことのできる授業を行い、また、児童に達成感を味わわせる経験を積み重ねさせ、児童の「学びに向かう姿」を高める。

- ・ 令和8年度は、「心を整え 学びを拓く学校づくり ～ウェルビーイングを基盤とした生活・学習習慣の確立と学力向上～」をテーマに校内研究を進める。授業を構造化していくことを一つのアプローチとして捉え、①学習の構造化によって学習者全体が共有できることによる安心感の醸成、②多様な考えや意見に触れる機会を通して「自分の考えを伝え、他者の意見を受け入れることの安心感」の習慣作り、③学習のめあてに向けた視点を明確化することによる学習内容の全体像の把握の視点で取り組んでいく。

保護者アンケート「学校ではすすんで学習できる授業が行われている。」80%以上、「家庭では、1日に1回以上子供をほめるようにしている。」90%以上

- ・ 児童の実態を把握し、放課後補習、個別指導、関係機関との連携などを進める。

児童の相談ごとに対応する時間を適切に設け、「相談できる大人」を増やしていき、「心」を整えていくことで児童の前向きな「学び」に結び付ける体制をとる。

- ・「八王子っ子ミニマム」（市学力調査）や「忒分っ子ミニマム」の結果をいかし、個に応じた課題を設定して基礎学力を定着させる。

各学年に応じた「忒分っ子ミニマム」やNBK漢字テストに取り組み、基礎学力とできた喜びを味わわせる。「忒分っ子ミニマム」や「NBK漢字テスト」は各学年70%がクリアを目標とし、3学期から実施する。

「八王子っ子ミニマム」（市学力調査）において1回目から2回目の改善がみられること

◎どの子ども安心して通える安全・安心で居場所となる学校づくりに組織的に取り組む。

人権・健康・安全への不安に対して組織で対応し、「いじめ」の未然防止、早期発見・解決、不登校や特別な配慮を要する児童への支援に取り組む。

- ・児童の実態把握に努め全教職員で協力して指導に当たる。

木曜日の昼時間・・・たてわり班遊び「いいなタイム」

放課後・・・放課後補習や児童からの相談時間、学校いじめ対策委員会、いいなデイ会議（いじめ防止のための情報共有の時間、特別支援校内委員会等の各種会議

学校いじめ対策委員会及び情報共有と記録作成の時間として毎週の実施。

特別支援校内委員会を計画に基づいた実施だけでなく、対応に応じた臨時に開催する。

- ・不登校傾向や遅刻・欠席の多い児童には、担任だけでなく養護教諭や管理職、SC、SSW、関係諸機関と組織対応し、適切かつ丁寧に関わる。また、情報や関わり方を全教職員が共有することで、経験の少ない若手教員にも対応の方法を学ばせる。

法令や条例に基づいたいじめ対応をいじめ対策委員会を中心に適正に行う。

年3回のふれあいアンケートや子ども見守りシートの内容の適切な取り扱いと対応を行う。

- ・いじめ防止の取り組み、虐待に関する組織的な対応の周知について、年度初めの保護者会で学校長から伝え、学校だより・学年だよりやHP、保護者会などでも積極的に伝えていく。

保護者アンケート「いじめのない学校づくりに取り組んでいる」の肯定的評価80%以上。

○地域と連携した特色ある教育活動を進め、地域に愛着をもち、よさに気付く児童を育てる。

- ・キャリア教育年間計画に基づき、地域人材や地域教材に関わるゲストティーチャーやボランティアを取り入れた学習活動を進める。

昔遊びのお手玉（1年生） 元八王子音頭 市内の養蚕農家との連携 蚕飼育から繭の作品作りまで 高尾の森自然学校との共同学習（3年生）企業の社会貢献活動とタイアップした出前授業（各学年）資源循環課、JAとの連携 ダンボールコンポストの実践（4年生）エコ広場との大沢川での環境学習（4年生） はちまるサポートとの福祉学習（4年生）劇団風の子観劇（全学年） 富士美術館での鑑賞（5年生）がん教育の実施（5年生）放課後子供教室との連携 他

- ・学校運営協議会が行う「わくわくサマースクール」の実施。

8月中旬から二学期始業式までの期間、学校運営協議会が主催する「わくわくサマースクール」を開催し、地域人材を活用した講座を通して子供たちとの交流の機会をもち、長期休業中も学校が子供たちの居場所になる場と2学期からのスムーズな学校生活への適応を目指せるように機能させる。

- ・花壇の維持や植物の栽培などを通して、地域の方々と触れ合う機会をつくる。「ガーデンフロル」

元八青少対緑化活動部、学校運営協議会、PTA、地域が参加する「地域の愛があふれる花壇」の整備や維持（地域、保護者、環境委員会、教員） サクラソウの栽培（5年生）

- ・校内の美化に努め、環境を整える。

6年生、ボランティアによる校門横の塀のアートペイント
学校運営協議会や保護者、地域ボランティアと連携した清掃活動（年2回）

○教職員のライフワークバランスを考え、自分の強みを生かそうとする職員集団となる。

- ・経験や強み、専門性を生かすとともに、将来の教師像を見据えた校務分掌を意図的に担わせ、教師としての児童観、指導観、指導スキルを向上させていく。
- ・児童の怪我やトラブルは、初期対応を丁寧に行う。「連絡・報告・相談」を密にし、組織として誠実に対応し、早期解決と事後の当該児童や保護者へのケアを大切にする。
- ・働き方改革が児童の教育活動の充実につながるという観点にたち、校務支援システムやホームアンドスクールやスクールサポートスタッフ、副校長補佐、学年補佐等を効果的に活用していく。
- ・育児や介護を抱える職員の負担にも考慮し合える職員集団となるよう、管理職や衛生推進者が中心的役割を担い、職員全体で相互いにメンタルケアに努めていく。

【服務事故防止に向けた取組】

- ・年度初めの式分方小学校服務規程や処分量定基準等の確認
- ・各種休暇の適切な取得
- ・毎月の職員会議における指示伝達、周知、確認
- ・体罰セルフチェックの実施
- ・毎月のヒヤリハットの確認と改善点の検討、サービスニューズレターの確認
- ・都、市からの悉皆研修の確実な実施
- ・会計事故防止のための校内の規定に基づいた処理
- ・衛生推進者が中心となった相談体制の構築
- ・出張時における適正な事務手続き 等